

**製品名: KCNT1 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab12952**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	140kDa

**抗原情報**

遺伝子名	KCNT1
別名	KCNT1; KIAA1422; Potassium channel subfamily T member 1; KCa4.1
遺伝子 ID	57582.0
SwissProt ID	Q5JUK3
免疫原	抗血清はヒト KCNT1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1019-1068

**背景**

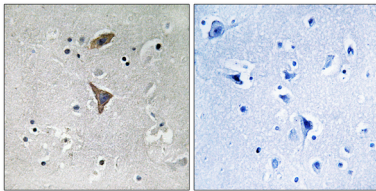
カリウムチャンネルは、機能的および構造的観点から、電位依存性イオンチャンネルの中で最も複雑なクラスに属します。その多様な機能には、神経伝達物質の放出、心拍数、インスリン分泌、神経細胞の興奮性、上皮細胞の電解質輸送、平滑筋の収縮、細胞容積の調

節などがあります。この遺伝子は、イオン伝導および発達シグナル伝達経路において機能すると考えられているナトリウム活性化カリウムチャンネルサブユニットをコードしています。この遺伝子の変異は、早期発症てんかん、乳児悪性遊走性部分発作、および常染色体優性夜間前頭葉てんかんを引き起こします。選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生じます。[RefSeq 提供、2012年12月]、機能：外向き整流性のカリウムチャンネルサブユニットで、他の Slo 型チャンネルサブユニットと共集合する可能性があります。細胞内ナトリウム濃度または塩素濃度の上昇によって活性化されます。CHRM1 や GRIA1 などの G タンパク質共役受容体の刺激により活性化されます。ナトリウムイオン非存在下ではカルシウムによって制御される可能性があります (in vitro)。,PTM: プロテインキナーゼ C によってリン酸化されます。C 末端ドメインのリン酸化はチャンネル活性を高めます。,類似性: カリウムチャンネルファミリーに属します。カルシウム活性化サブファミリーです。,類似性: 1つの RCK N 末端ドメインを含みます。 ,サブユニット: 細胞質 C 末端を介して CRBN と相互作用します。 ,組織特異性: 肝臓、脳、脊髄で最も高い発現を示します。骨格筋で最も低い発現を示します。 ,

## 研究分野

-

## 画像データ



KCNT1 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。